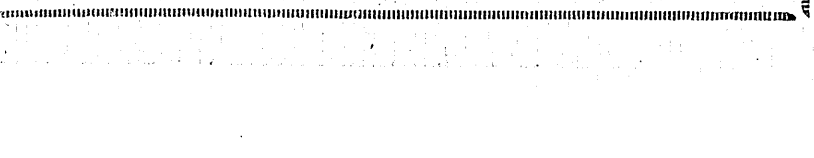


刊夕日五十月九

常盤每日新聞
 醫學博士齊藤豐君を悼む (一)
 市原陸郎

君は今頃何故死んでしまったのです、僕等は君が斯うなるとは夢にも知らないで遂十日斗り前には警報事務の白井氏と歸朝以來療養に専らなりし君は経過良好で殆ど全癒し近日中に歸平する相だ其時こそは大々的に歡迎會を開いて醫博の學位を得た名譽を祝ひ併せて遠く獨逸に留學した疲れを慰やして遣らうと他人事とは思はず哀神から喜び合つて語

つたのでした、夫れなのに忽然君の訃報に接したので暫し茫然自失して其眞を疑つて唯夢なれかとと斗り祈つた甲斐もなく君は永久に歸へらぬ客となつた、實に哀しと云はんか惜しと云はんか哀惜の情極まつて詞の出る所を知らない
 嗚呼君の死によつて君一家の家寶を失つた斗りか實に刀圭界としても亦國家として有爲の逸材を失つた事となり其の響き其損失は大であります、少くとも我が母校は誇りとする代表的秀才を失へ僕等は又とない畏友を失つた事になります故に惜しんで惜しんで



常盤文藝
 雨籠り 明愛
 女達は雨におびて籠り居ぬうす暗き間にトランプなどし
 朝の雨つづきて永しまるふもゆかな云へる午後三時ごろ
 海邊にとひたはしりゆく道に見ぬ顔重さなれる學校の窓
 スタートのこねにどよめき女たちトランプもつ手たたきつつ見ぬ
 雨けふるわだつみひろしただひろし灰色の空灰色の海
 叔父様の部屋はいとほし木横鹽花咲きぬたりふ雨の彼方
 なすび吊る黒むらさきの幹並に一本のこる赤きほづき
 幼き子ほうづきとりて喜びぬ雨につれなき部屋にまろびて
 伽藍堂がらんとしたる大部屋に大蚊張りぬランブともしぬ

便利と經濟の親玉
 瓦斯で炭をわくすには電氣ト金物特賣の「瓦斯火わくし」に限りませす。炭がくすれず取扱ひに便利でございませす。特價たつた金貳拾錢です。御家庭用の釘、抜キ又は金槌には「小松式四徳金槌」をわす、め致します、特價僅か廿貳錢で其の便利な實に驚きませす。
 特製打刃物はすべて請合ひませす。
 經濟の親玉文化籠、東洋籠、大正かまごの御試用をも願ひませす。
 どうぞ見るだけでも来て見て下さい

高橋榮子
 婦人和洋服、子供服、袋物、タツチング、刺繡ビース、佛蘭西リボン、婦人並に小兒帽子、
 暫く東京で學びました右の數々の結果を郷里の皆々様方にお傳へ致す事が出来れば結構と存じまして九月一日から毎日お望みの方々に自宅迄お集ひを願ひ御研究のお相手を致して居りますからごなたも御遠慮なく遊び方々お出で下さる様お待ち申上げませす
 平町白銀町

吉田眼科醫院
 手拭、消防被服 專染所
 印半天、風呂敷
 小役員募集
 弟子さん
 平町五丁目
 吉田染屋工場
 電話五五八番

原齒科醫院
 場所 平町研町通公園正門前
 平町土橋通り 電話三二一番

藤沼醫院
 平町紺屋町
 電話五〇七番

發行兼編輯人 川崎文治
 印刷所 本報専屬 錦陽社
 印刷所 本報専屬 錦陽社

定部金貳錢 廣五號十二
 一ヶ月廿錢 告字請一行
 郵税五厘 料五十錢 日刊
 印刷所 本報専屬 錦陽社

平町白銀町
 金成醫院
 外科内科
 産婦人科
 花柳病科
 電話三五八番

粹な江戸形 染物と洗張
 本支店 平町古鍛冶町
 本店 東京麹町七ノ廿

尚あきらめる事が出来ない何すればとて天は無情にも早く君を奪ひ去り給ふかとなじり果敢なき人生を啣ち度くなるのです、醫術の正奥を極めた君でも又廿有五貫の偉大なる體軀を所有せる君も恣に病魔に弄ばれたるの神に微塵に征伐されたるを目の當り見るにつけ今日の健康は明日にと誇り得なじ心地して深刻に人生朝露の如しとの古言を肝銘しました (つづく)

兒童の齒科治療は一回五錢でよろし

原齒科醫の社會奉仕

然も其料金は學校に寄附
學校に寄附する事になつて
居る、右に關して

原齒科 醫は語る何
等か自分の職掌柄に依つて
社會奉仕の一端に資したい
とは數年來の希望であつた
のですが今更先づ兒童に對
して自分の微力を献げる事
になりました、私の考へで
は料金は一錢も取らず全々
無料で治療に従事する積り
であつたのですが夫れでは
反つて

此事を 憂へ一般に
齒牙衛生に留意すべく注意
心を涵起すると共に既に疾
患を持つ者に對しては是れ
を根底から治療せしむべく
一つの試みを企てた、夫れ
は先づ第一着手として小兒
の齒牙を強健ならしむべく
小學生に對しては僅かに一
回五錢の施術料を以つて治
療に従事する事である、其
爲め

平附近 の各小學校
に對し治療券を配布した、
施術を乞はんとする兒童は
其治療券に受持教員の證明
を受けて原齒科醫院に持參
すれば直ちに治療を受ける
事が出来るのである、然も
同醫院では五錢宛の料金を
積み立て、是れを全部其小

年同期の七八五より好成绩
だが滞納に於ける千四百八
十九人二千五百五十七圓卅
四錢は平町の五百四十二人
八百四十五圓九十三錢を不

俸給生活者に... 向く住宅が拂底

平町の家賃は...
縣下でも二位は下らぬ
れるなほ毎年幾分づゝ

住宅難が數年前までは非常
に叫ばれ一時は町營住宅説
を傳へられた平町も昨今に
至つては南町の新道開設と
共に同沿道附近にも

相當の 住宅が建設
され住宅難の一部は緩和さ
れたかの觀あるがしかし帯
に短じたすきに長しで月給
取の多い平町にはこの人達
にふさわしい家が少くこの
意味での住宅難は今もなほ
相當に叫ばれてゐる

町當局 の調べによ
ると家主の数は七百六十名
以上ありその一ヶ年の家賃
収入は約六十萬六千五百圓
余となるから實際の収入は
その二割弱増しの七十二萬
圓以上に達するものと見ら
れる

家庭欄
+.....+
+.....+

磐城丸 の
縣へ要求す
東京無線電信局に於ける放
送無線電報の放送並に午後
九時の氣象電報及時報符號
の放送には從來火花式四千
メートルの電波長を使用し
て居たが今回混信の防止及
通信距離延長を計る爲め九
なし山も適宜に切り、齒磨
楊枝に石鹼を充分につけて
むらのないやうに擦り洗ひ
ます。別に晒粉をといて水
の中に洗い上げた帽子を一
時間ほどつけよく水洗ひし
てそのまゝ陰干にしますつ
り乾いたら、半紙を上
當て銀をかけるすると見
がへるほど白く美しくなる



家庭欄

無電装置
更
△古銀治町二七 樋田市助氏二女マ
サ子
△婚姻
△長橋町三四 關内平兵衛(四一)石
城郡内郷村大字高坂 長谷川チ
(三)

何處の沖で難破したか

石城郡四倉町の漁船八代丸
が去十日双葉郡諸戸沖に難
破の漂流を發見せるは既報
の如く曳綱を切断し本縣水
試場の

磐城丸 の出動によ
り十二日小名濱港に引入れ
たが同船は同日午後に至り
兵庫市魚市場の鮮魚運搬船
であることだけは判つた然
し何處の沖で難破したか其
他の詳細は引取の船主が見
ないで不明であるが

構造の 模様では鮮
魚を生かして運んでゐたら
ば

新設電話の
平町の異動數
が町本年度増設電話は開通
と同時に名義變更或は名義

月下句より七千メートルに
變更する事となつたので他
の内外一般通信に於ても漸
次電波力が廣く使用せられ
んとする氣運にあるので船
舶自衛並に無線業務上より
本縣水産試験場所屬の磐城
丸の無線電信も右の受信装
置に變更されたいと九日仙
臺遞信局より本縣へ通牒あ
つた

はね飛ぶ
坑夫の慘死
石城郡内郷村大字宮字平太
郎居住栃木縣生れ磐城炭礦
坑夫福田定吉(五三)は十一日
午前十時頃同炭礦坑道にて
二百五十ポルトの電線に觸
れて跳ね飛ばされ傍らのト
ロに頭部を強か打ち付け重
傷死亡したと

平町人事
△出生
△古銀治町二七 樋田市助氏二女マ
サ子
△婚姻
△長橋町三四 關内平兵衛(四一)石
城郡内郷村大字高坂 長谷川チ
(三)

磐城丸 の
縣へ要求す
東京無線電信局に於ける放
送無線電報の放送並に午後
九時の氣象電報及時報符號
の放送には從來火花式四千
メートルの電波長を使用し
て居たが今回混信の防止及
通信距離延長を計る爲め九
なし山も適宜に切り、齒磨
楊枝に石鹼を充分につけて
むらのないやうに擦り洗ひ
ます。別に晒粉をといて水
の中に洗い上げた帽子を一
時間ほどつけよく水洗ひし
てそのまゝ陰干にしますつ
り乾いたら、半紙を上
當て銀をかけるすると見
がへるほど白く美しくなる

無電装置
更
△古銀治町二七 樋田市助氏二女マ
サ子
△婚姻
△長橋町三四 關内平兵衛(四一)石
城郡内郷村大字高坂 長谷川チ
(三)

陳列し てあり次が
速成科技藝部室、これ又同
様な品と玩具等の即賣品が
ならべてある、見終つて階
下食堂に入れば生徒の女給
さんが「何を差し上げませ
う」と愛嬌よく出て來るが
如何に も振つてゐ
る参考品として處々に橋本
糸店、諸橋、三井、丸龜、
の諸店の人形など飾りたて
られてあり著音器の輕快な
音楽につれ觀衆は後から

最初の帆船

石城郡江名町有限責任江名
信用販賣購買利用組合では
本縣最初である帆船大成丸
を造つたが同船はトン數三
十五トン、七十五馬力のも
ので之に對し農林省から一
トンにつき三十八圓の補助を交
付された

警察部長參觀 既報
本縣警察部長は本日平署演
武場に於て同署官内巡查の
劍道試合を參觀した

押繪等 で階段を上
れば圖書展覽會で警中教諭
近藤廣記のチェーリッソを